

# 地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

## ワークショップ

# 住民提案と事業報告、連続開催

地域再生協議会の地域課題検討部会(廣上正市部会長)は1月29日(日)、2月22日(水)に相次いでワークショップ(意見交換会)を開いた。1月末はH29年度から取り上げる事業テーマを中心に、2月開催では再生協議会のH28年度事業報告をもとにした議論が行われた。それぞれ一色小学校区内住民、全町の地区長中心にした地域リーダーが参加し、活発な意見交換、交流が行われた。再生協議会にとってはいずれも初めての試みで、これらの成果をどのように生かしていくかが課題になる。

<1月29日・百合が丘児童館>

## 6グループから提案が続々と

「地域づくりに知恵を貸してください」——の呼びかけで行われたワークショップには、一色小学校区内を中心に68人が参加した。日曜日開催としたせいもあって、普段はこうした会合に参加が難しい子育て世代や女性の参加も目立った。会場の百合が丘児童館では2階に託児の態勢を整え、8人の幼児を預かった。

当日は、来年度からプロジェクトテーマにする予定の里山健康ウォークマップ、魅力ある地域公園づくり、一色小の地域交流拠点化の3テーマを取り上げた。それぞれの分科会リーダーがプロジェクトの趣旨を説明した後、6つのテーブルに分かれてこれらを推進するためのアイデア提案、課題の整理などを行い、各テーブルの代表が議論の要点を発表した。



3テーマを6つのテーブルで話し合った

当日の進行は2人のコンサルタントに依頼し、参加者全員に討議資料を配布するなどの準備をして臨んだ結果、全員が議論に参加するなどの盛り上がりが見られた。各プロジェクトに対し出された提案数は内容の重複分を含めると、それぞれ60-70件に達した。これらは今後、各分科会での検討に生かされることになる。

<2月22日・町民センター>

## 町内の地区代表など70人が参加

「一色小学校区地域再生協議会・事業報告会」の名称の下、ワークショップ方式で行われた。再生協議会の活動が町のモデル事業とされていることから、二宮町との共催の形で進められ、地区長をはじめとする町内各地区代表者らを中心に町民センターに約70人が集まった。



各部会の活動を聞く参加者



活動展示ブースでの意見交換

冒頭、村田邦子町長が「協議会は初年度から様々な取り組みを行っている。地域活動の先行例として参考にしてもらいたい」と挨拶。各部会のH28年度事業報告を中心にしたパネルディスカッション、部会ごとの活動を展示したブース前でのポスターセッションの順に進めた。

各部会の報告では、活動成果を整理して提示する一方、「駐車場の確保が必要だ」（友情の山部会）、「取り上げる範囲が広く、まだ成果を語れる段階になっていない」（地域福祉部会）、「地域との協力の成果はまだ十分ではない」（県公社部会）、「一応の整備ができたが、利用者の拡大が大きなテーマになる」（古民家活用部会）など、29年度に向けた課題の指摘もあった。

ポスターセッションでは、協議会の部会関係者が各ブースの前での説明役に回り、参加者との意見交換を行った。当初予定では、こうしたやり取りを通じて出た意見、提案をポストイットを使って貼り出すことになっていたが、時間が足らなかったこともあって、貼り出し例は少数にとどまった。

会場参加者と協議会関係者との意見交換では、「難しいテーマになればなるほど行政との信頼関係を基にした話し合いが重要になる」「難度の高いものは次回しにし、成功の見込みが高いものから手掛けるべきだ」などの意見が出された。